



南極ものがたり

No.22



◆ 昭和基地の大晦日

31日、大晦日。初の野外オペのスカールンから帰ったのが17時半。基地での仕事は昼までだった様子。昭和基地では、土日の休日はありません。平均十日に一度くらいの休日と、強風が吹き現場作業が出来ないときに休みになるくらいです。短い夏期間中にやり遂げる任務があるため、それは致し方ありません。それでも、今日は大晦日。19時からの夕食後、忘年会が始まりました（日本ではもう年が明けてます）。一部の隊員は、管理棟 Bar へ出向き、56次 vs.57次紅白歌合戦（TVも見れないため、自分たちでやっちゃいます）。その後、夏期隊員宿舎に帰り、調理隊員渾身の年越しそばをいただきました。そして、年明けが近づいた頃、機械隊員特製の「除夜の鐘」を一人一人願いを込めながら打ち鳴らしました・・・、というよりも乱打したのです。新年を迎えても鐘の音は、いつまでも白夜の空に響き渡るのです。



少し豪華な夕食



年越しそば

昭和基地。2016年は、今後の活動を暗示すべく、天候にも恵まれ、穏やかに幕を開けたのです。

ここで一句 **「夢の地の二度なき晦日昭和基地」**



管理棟 Bar



本物の氷河です



23時過ぎ。Barから夏宿へ



白夜の中の除夜の鐘

◆ JARE57 隊員紹介

長谷川 雄一 (40) 越冬隊 調理担当 東京都出身
主婦会館 第52次越冬隊

埼玉県立鴻巣高等学校卒業後、調理師となる。フランス料理レストランなど多方面で修業を積む。若い頃の勤務先で、41次隊の調理担当で派遣された先輩がいることを知る。当初は興味が湧かなかったが、歳を重ね関心が高まり、52次隊に参加。今回は前回の反省も踏まえ、入念な準備をして臨む。しかし、高価な物があるわけでもなく、越冬食材などもある。自分の力量が問われる場であり、言い訳はしないと強い決意。食事の場は、団らんの場であり、コミュニケーションツールともなる。越冬隊員は、それぞれが一人しかいない専門職の集団。他業種がぶつかり合うといい集団になるという信念のもと、食事を通して、その仲立ちが出来ればと考えている。今回は、観測隊の仕事に、より興味をもって関わり視野を広げたい。皆さんへは「やりたいことを早く見つけよう」「人の話を聞け」「言い訳をしない」とアドバイス。夜の団欒時は、いつも笑いの渦を巻き起こしています。皆さん、南極授業での凛々しいシェフの姿、覚えていますね。



包丁を手にすると職人の表情に

◆ そして、元旦

元旦の朝。食堂には豪華なおせち料理が。シェフが腕に依りをかけて作りました。まさか、昭和基地でこんなお正月を迎えることができるとは。感謝。もちろん、今日一日はお休みです。



新年を祝して。乾杯



外には鳥居も



源隊員。落語を一席。



飾り付けもお見事

2016.2.16.